外観南面。雨天時の登降園に重宝する「おはようぴろてぃー」が、自転車置場から保育室まで連続する。その上部は、未満児園庭として利用される「おそらのひろば」（❖）

高窓から陽光が差し込む保育室。木製建具を全開すれば、「ひだまりでっき」を介して「おそらのひろば」と一体化する（※）

おもいでの価値

グレース幼稚園 | 設計・監理：ちびっこ計画・大塚謙太郎一級建築士事務所

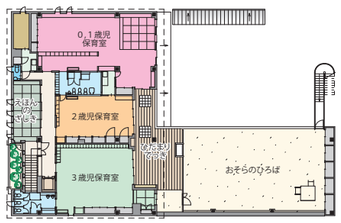
「本物のステンドグラスではないんですけどね」と、園長は遠慮気味に仰った。旧園舎の踊り場に掲げられていた、アクリル板に描かれたステンドグラス調の絵は、再び新園舎の踊り場を彩っている。園舎の建て替えは、卒園生の生きた記憶や楽しかった思い出を破壊することに他ならない。学びの起点ともいえる幼稚園は、卒園生がいつでも戻ってこられる場所でありたい。そして、戻る意味のある場所であってほしい。物質的に本物であろうがなかろうが、それに宿る一人ひとりの思い出はそれ以上に輝いている。遠慮など要らない。過ぎ去った時間や懐かしい思い出は、いくら工事費を積んでもつくることはできないのだ。つまづいたとき、悩んだとき、いつでもあの頃に立ち戻れる場であることもまた、園舎に与えられた役割のひとつだろう。

グレースの子どもたちは実にはつらつとしている。その保育方針は、「『遊んでばかり…』でいいんです」という園長のこの言葉に集約される。旧園舎では保育室と園庭との連続性が担保され、喜々とした子どもたちの遊びが、保育室から園庭の端々に至るまで全面的に展開されていた。新園舎の設計でも、それをしっかりと受け継いだ。「土台をつくる時期なのです。詰め込むときではありません」。園長は揺るがない。

（大塚謙太郎）

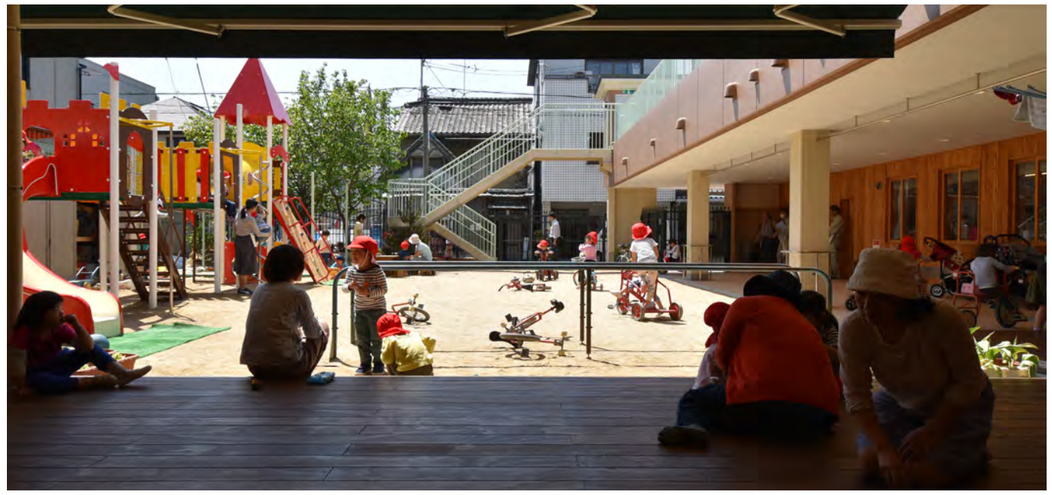
「おもいでのステンドグラス」（※）

配置図・1階平面図



2階平面図

所在地	大阪市阿倍野区昭和町 4-3-19
建築主	学校法人大阪キリスト教学院
用途	幼保連携型認定こども園
定員	100名
設計担当	大塚謙太郎、小笠原順也
施工	太陽建設
構造・規模	S造　地上2階
敷地面積	805.28㎡
延床面積	666.55㎡
竣工	2018年3月
撮影	多田ユウコ（※）、エスエス大阪支店（❖）
備考	構造設計：Ks構造設計事務所 電気設計：角田設備設計 機械設計：BS設備設計 積算：アソシエイツ



園舎と木々に囲まれた抱擁感のある園庭で、子どもたちはとことん遊ぶ。グレース保育の原点だ。右手の職員室の窓からは、その姿をはっきり視認できる

押し入れ下に「かくれが」を設け、居場所の選択肢を増やす

「ひみつのほこら」で読み聞かせ（※）

「えほんのざしき」。畳の下に床下収納を備える（※）